

No. 27

1993

12月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井武平
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



敬老会会場



敬老会受付

文化祭り・敬老会



展示出品 (手編クラブ)



舞台発表 (民謡クラブ)

日頃の研鑽^{さん}成果に満ちた
平成五年度文化祭り

恒例の下市田区文化祭り・敬老会を、区と公民館共催で、去る十月十六日(土)十七日(日)に公民館において開催しました。この文化祭りは、コミュニティ事業として個人・団体の展示発表や、敬老会に併せての茶道部の接待、個人団体による舞台発表を、日頃の研鑽成果として、区民の皆様に見て頂く場とするものであります。

二日間共天候に恵まれ、展示作品は十八団体、舞台発表は十八組二十二種目に及び、どの作品もどの種目も常日頃の研鑽成果あふれるものばかりで、会場の狭さや背景の貧弱さに、気がひける思いでした。敬老会に出席された方々、大勢参加して頂いた区民の方々も、充分に観賞観覧されたことと思います。

敬老会には、七十歳以上の五百九名の方を御招待致しました。その内訳は卒寿以上二十名、米寿祝五名、喜寿祝三十四名、その他四百五十名であり、当日の出席者は百七十一名で、出席率は約三四％でした。

昨年から始めたお楽しみ大会は、参加人数も増加し、文化祭りの行事として定着しました。

今年も担当者の反省会を持ち、来年もよりよい文化祭りとするべく、努力したいと思います。区民の皆様方も、折にふれて御意見を寄せて頂ければ幸いです。

下市田区 新三役の紹介と挨拶

区三役の任期が、十月末で終了するので、選挙管理委員会では十月十三日までに、立候補者及び適任者の推薦の告示をしました。
十月二十五日に、全区民による信任投票を行ない、新三役が決定しました。



区長 下井武平

去る、十月末の任期満了に伴う、区三役の改選の結果、心ならずも引き続き区長の重責を御引受することになりました。もとより非才、特に年令的にも不適任と思いましたが、区民の皆様のご誠意を謙虚に受け止めて、この大役をお引き受けした次第であります。

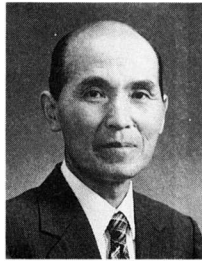
皆様方の御鞭撻と御協力に依って任務を果たしてまいりたいと考えています。宜しく御願ひ致します。



副区長 富田隆仁

不況と凶作のいまわしい

今年度の区三役改選に当り、はからずも再任されました。前期二年間皆様のご理解とご協力を戴き深く感謝申し上げます。当然任期満了交替と考えておりました処で、少なからず躊躇致しましたが、管理委員の方々の強いお言葉に従いました。



会計 仲平眞司

区の 情勢について

区長 下井武平

まず、中段の土地改良については、去る十一月十三日関係者の総会が開かれていよいよ本格的に推進する事になり、新しい役員組織が発足しました。大事業でありますので、町のご協力を得ながら、区としても全面的に御支援して参りたいと考えています。

また、明神橋の架け替えについても、去る十一月十三日、地元に対策委員会が発足、出砂原地帯の将来像を考えながら取り組んでいくことになりました。

公共下水道処理場予定地については、先ず、住宅のある方の要望をお聞きしながら用地委員が努力していますが、この事に目星がつき次第、次の段階に入ることになりました。

・この上は、会計の職務の大切さと併せて、公平均衡を旨とし、財政運営には厳正に処していくつもりであります。宜しくご協力の程お願いいたします。

振興総合計画の平成六年度分の地区毎の事業予定が固まり、町との最終協議が十一月二十四日に行なわれ事業予定が決まりました。今後、実施に当たっては関係皆様のご協力をお願い申し上げます。

広域農道については、下市田地区の法線が決まり、十一月十九日に現地説明があり、近く関係者の対策委員会が発足することになりました。今後の話し合いは対策委員会を通して行なう事になりますので、よろしくお願い申し上げます。

区三役の 選挙について

下市田選挙管理委員長
壬生 俊幸

十月代議員会で選挙管理委員会八名で発足、直ちに日程を協議し区三役任期満了による区民への公告、現三役の意志確認し、幾度かの委員会で情況等検討し再任の意見一致を得て、当人に直接現在の情勢を申し上げますが、委員全員で自宅へ伺いました。

平成5年度 下市田区一般会計前半期決算報告書

(自平成5年4月1日～至平成5年9月30日)

既収入金計 16,658,962円
既支出金計 14,278,066円
差引残高 2,380,896円

1. 【収入金の部】

項目	予算額	既収入額	予算残額
1. 区費	14,541,000	7,500,500	7,040,500
2. 繰入金	7,740,000	0	7,740,000
3. 町支出金	6,000,000	3,424,123	2,575,877
4. 財産収入	1,300,000	100,822	1,199,178
5. 寄付金	1,200,000	847,260	352,740
6. 消防義務金	2,500,000	2,380,000	120,000
7. 諸収入金	1,250,000	59,387	1,190,613
8. 前期繰越金	2,000,000	2,346,870	△346,870
収入合計	36,531,000	16,658,962	19,872,038

2. 【支出金の部】

(単位 円)

項目	予算額	既支出額	予算残額
1. 総務費	12,869,000	5,117,228	7,751,772
2. 厚生費	702,000	253,271	448,729
3. 林務費	1,206,000	302,251	903,749
4. 土木費	10,000,000	3,353,963	6,646,037
5. 水利費	4,250,000	3,004,233	1,245,767
6. 消防費	3,050,000	1,547,120	1,502,880
7. 公民館費	2,980,000	700,000	2,280,000
8. 予備費	1,474,000	0	1,474,000
支出合計	36,531,000	14,278,066	22,252,934

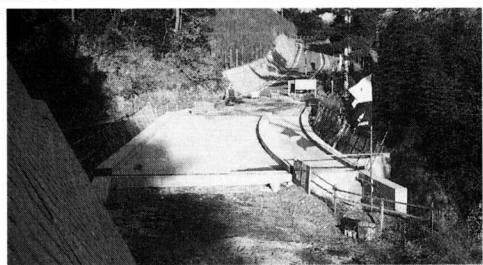
どうしても必要な人である事を申し上げ再任をお願いしました。話し合いの中で健康のこと、家庭の事も出ましたが、『ハイ判りました』と帰る訳にもいかず、夜十二時を廻っていた事もありました。

人を選ぶ事、お願いする事の難しさをこれ程に感じました事はありません。幸いにも新三役が誕生し、ほっとしているところです。委員の皆さんご苦勞様でした。

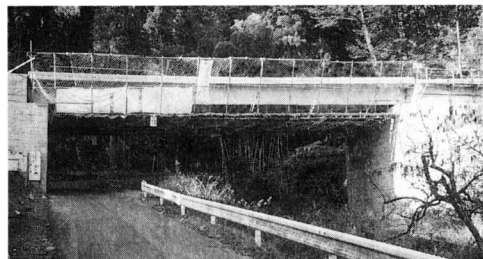
委員会通信 (その一)

道路改良工事

庭村 一 男



1-1号線 橋梁工事



1-1号線 橋梁工事



学校平U字溝布設工事

本年度も、土木委員の初仕事は、春の里道作り前の敷砂利作業でした。年を追う毎に、砂利を必要とする箇所も減り、今年は、小型車で二十三台でした。里道作りは、区民全員参加で行なわれ、今年も無事終了しました。

今年度、施工完了又は、工事中の主な工事は、一ノ線橋梁工事、乙坂入口改良、朝比宅、大沢宅改良、三区会所進入路、五区唐沢

宅、木村宅改良工事です。又、U字溝布設替え工事は、学校平、四区会所入口、出砂原一ノ八号線です。

比較的工事施工のやりやすい、家屋の少ない所は、横線、縦線共に改良工事ができておりますが、現在、残っている箇所は、家屋等の密集箇所です。地権者はもちろん、周囲の皆様の一層の協力を得て、一日も早く、工事が完了する事を願っております。

現在、林務委員三期目ですが、委員の任期も一期で替わる区もあります。後任を作らないと交代ができない区もあり、その所をもう少し考えて頂きたいと

林務委員長を引き受けて

有賀 重 昭



林務委員長

林務委員長という大役をいただき、前二期を振り返ると、私の前の職場(営林署)での四十三年間の経験が役に立ったと思います。

カモシカのように、山を走り廻って、造材検知もしました。又、大型トラックの運転、バックホー、タイヤシャベル等の大型重機を使つての作業、それら機械の修理等、すべてを自分の手で行ないました。

現在は、林務委員三期目ですが、委員の任期も一期で替わる区もあります。後任を作らないと交代ができない区もあり、その所をもう少し考えて頂きたいと

代議員会だより

(研修旅行の報告)

意義深かった

研修旅行

区の三役、代議員、公民館三役、それに公民館の公使を勤める渡辺千代さんを含む一行十八名が、去る十月五日午前六時半にマイクロバスで南紀勝浦に向かって出発。高速道路に入ってから

もなくサロコンバスの後部席は急に賑やかになって、親睦を深める微笑ましい情景が続いた。途中、鬼ヶ城・那智の滝等を見学し、四時半には予定通りホテル浦島に到着した。

翌六日は瀬八丁を船で見学し、その後は一路故郷に向った。天候にも恵まれ、本当に意義深い研修旅行が出来ました。

三区部落長
木下 豊



平成5年度 下市田公民館中間決算報告書

(自平成5年4月1日～至平成5年9月30日)

既 収 入 額	1,534,867円
既 支 出 額	1,507,683円
残 高	27,184円

収入の部

科 目	予 算 額	既収入額
繰 越 金	80,000	96,397
繰 入 金	2,980,000	700,000
補 助 金	900,000	738,000
雑 収 入	5,000	470
合 計	3,965,000	1,534,867

支出の部

科 目	予 算 額	既支出額
総 務 費	1,850,000	617,197
教養部費	1,184,000	551,077
体育部費	583,000	120,333
視聴覚部費	211,000	154,054
図書部費	107,000	60,691
予 備 費	30,000	4,331
合 計	3,965,000	1,507,683

(単位 円)



下市田区、視聴覚部、教養部の合同による、第十一回下市田区カラオケ大会が、

去る九月二十六日(日)に、公民館に於いて行なわれました。

各代表の方々の熱唱の他、アトラクション等加わって、盛大な会になりました。

審査員の先生方の慎重な審査の結果、次の方々が入賞されました。

気分は

越路吹雪で

宮下澄子

生来いやとは言えない性分で、本堂先生からお電話を頂いた時も、電話の向こうに人探して苦労しているお姿がうかがい、二つ返事で引き受けてしまいました。

「なーに、区の大会だもの楽しく歌えばいいんだら。」と思っていたらとんでもない。松村さんにお聞きしたら優勝した人は町の大会へも出るという。さあ大変だ。お引き受けた以上三区の代表として恥ずかしくないようにせねば。気ばかりあせるが、主人と行ったスナックでは「父ちゃんの方がうまくい。」と言われてすっかり落ち込みました。

◇カラオケ大賞

愛の讃歌

宮下澄子……三区

◇歌唱賞

おしどり

小川光春……水利委員

◇努力賞

愛燦燦

下平志信……一区

◇熱演賞

千曲川

上沼武人……六区

結果は…ありがとうございました。上手くもない私が優勝できたのも三区の皆様のおかげです。改めて御礼申し上げます。おみやげを二つ

一、子どもが寝てから主人と二回程練習に行きました。二人連れは何年ぶりでしょう。

二、あの白いドレスは結婚式の時のもの。当然着れないと思っていいたら、体がスナナリ入り、思わずニンマリ。



カラオケ大会に

参加して

下平志信



カラオケ大会に出場する事になって、まず困ったのが選曲。何を唄えば良いやら、自分では判断しかねて主人に選んでもらって、やっと決まりました。それから

楽しかった一夜

岡本 孝

会場をのぞいた途端、コリヤースゴイ、と驚きの声を発していた。いつもの殺風景な講堂とは別の会場の様に明々と照らし出されたステージ、周囲一面に配置されたオーディオやビデオの装置等、感心するやら驚くやらの一瞬でした。

どうせ秋祭りの余興、ぐらいいに考えていた私には勝負の始まる前にもう一本取られた気分でした。少し元気を付けにやー、と御神酒を頂きながら聞く各地区代表の方々の歌唱のすばらし

少しは練習しなくてはいいないだろうと、カラオケボックスへ。ひとり、歌の練習をしている中、まわりは子供の運動場……。

それでも何でも当日へ。お酒を呑む時に唄うのは何とも思わないのに、敢えて『歌』を聞かれる事がこんなに緊張する事だとは思いませんでした。もう、『エイ!!』とばかりに冷酒を三杯頂戴して、唄う頃にはいい気分。たった五分の歌だけど、何十年ぶりに味わう緊張感、自分にとっていい刺激になったかなと思っています。



さには、尻尾を巻いて逃げ出したい程でした。

今やカラオケは生活の中の一つの文化と言える程に解け込んでいる。歌の好きな人が好きな時に唄えるカラオケボックス等も、身近にあっても良いと思う。公民館役員の方々のお骨折りに感謝しつつ、楽しかった一夜を思い出している。

区報「萩の郷」編集委員の旅

日頃区報「萩の郷」を御愛読頂き、ありがとうございます。私共、編集委員会では、日毎変り行く下市田の行事、出来事を編集しつつ、歴史ある郷土を振り返り、読みやすく楽しい紙面をと頑張っております。

区報編集委員は、十月十一日に松代・小布施方面へ研修の旅に行つて情報収集をして参りました。幸い天候にも恵まれ、多くの史跡や歴史にも触れ、今後の区報作りにいかされればと、思っております。



敬老会に招かれて

林薰

頂き、ありがとうございます。
民踊クラブ等の皆さん
の発表を見せてもらい、
一日を楽しく過ごすことが
できました。これも長生き
のおかげです。

品に感動させられた。茶道クラブの皆さんの心をこめた抹茶を、心静かに戴き敬老会場へ行く。

会場は七・八分通りの高寿の皆さんが集まり楽しそうに談笑しておられた。間もなく開会になり下井区長さんのご挨拶、来賓の吉川町長さんの祝辞が行なわれた。表彰される七十七歳、

恒例の下市田区文化祭り、敬老会が、十月十六日(土)、十七日(日)の両日、下市田公民館において開催されました。順番待ちの列ができ

文化祭り・敬老会を振り返って
教養部

卒寿の林薫さん

れ、会場の皆さんより盛大な拍手が贈られた。私も表彰された一人として、この幸せに強く感激した次第である。これからはいり一層各自が健康に留意して生きがいを求め、余生を生き抜かれ、屋外展示の盆栽も多数出品されました。

どの作品も、年々向上がみられ、すばらしい出来栄に感心させられました。

敬老会には、多数のお集まりをいただき、茶道部の

あり、教養部一同で生花に取り組み、悪戦苦闘しました。来年は、華道部の方に、是非出品して頂きたいと思っています。今年も盛大のうちに文化祭り、敬老会を終えることができました。

楽しかった敬老祭

上
沼
正
清

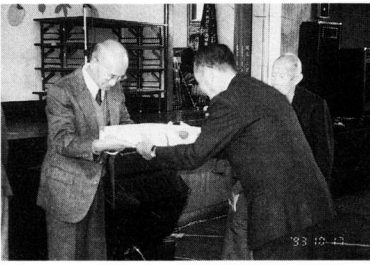
七十歳になると恒例の敬老祭に招待される。私も本年七十七歳を迎えたので喜

い。然し人生の節目として、私ももうそんな年になったのかと感慨も深く、自分ながら時の過ぎ去る早さを感じた。そして喜びの気持ちに胸に足早に公民館に参り受付をすませた。

いて参りたいと思う。やがて宴会となり、この間大正琴、民謡踊り、詩吟等クラブ員の皆さんのすばらしい発表があり、懐かしいメロディーに心ひかれすばらしい演技に見とれて、楽しい時間であった。中間にとび

抹茶の席では心を和ませて下さいました。

表彰者への記念品贈呈の後、祝宴に入り、大正琴、詩吟、舞踊、飛び入りのカラオケ等ステージ発表が行われました。帰りのバスの



喜寿の上沼正清さん

寿として表彰される招待状を戴いた。七十七歳は草書で喜と書くことにより、昔から長寿を喜んだ意味があると思われる。人生五十年と言われた時代では当然であるが、現代の人生八十年時代では珍しいことではな

公民館主催の文化祭も開催されており、各会場の展示作品を拝見した。長きは十五年もの年月を文化活動に取り組んでいるクラブ、新しい時代に沿った活動もされているクラブ等、日頃の努力によるすばらしい作

入り番組があり、町長さん区長さん代理さん三人の伊那の勘太郎の歌や、その他三人の歌謡曲が披露された。私も旧制中学時代に覚えた木村岳風流の棄児行をやらせてもらい、楽しい敬老祭は終った。

中では、お年寄りの皆さんが、「ありがたい」「よかった、よかった」と大喜びで、感謝の気持ちを表わして下さい。とのことでした。

多くの方々に文化祭に参加し、楽しんで

発表会



発表会の風景

町の中心らしい地域に

一区 北澤善二郎

に力を入
れ、
(1)・(2)に
関しては

役場、小中学校等があり町の行政、文化、教育、経済の中心地であるとともに、四五七世帯、一、四〇〇人の発展途上の一大混住地域であります。

そこで、

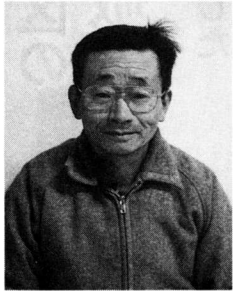
- (1) ふれあいと助け合い。
- (2) 独立世帯を無くす。
- (3) 青壮年・婦人の結束。
- (4) 国道への道の拡張。

ふれあいを大切に

二区 宮沢 務

二区は北に出砂原、西に一区南、三区に隣する部落で、面積は小さい方から二番目かな？戸数も少ない方から二番目かな？現在は一二〇戸で八常会となっております。

部落の性格からして、おとなしくて教養の固まりの様な人達ばかりです。部落諸先輩の努力により、二区内の道も大分整理拡張されて参りましたが、



農免道路・朝霧道路・河原のカヌー競技施設の話し・キラヤ等お店進出の話し等二区が様変りをする様な話もあります。コミュニティ



一区行事の一コマ

その他老人クラブ等団体の育成に補助しています。今後家業後継者の育成、和と活力ある地域作りに区を挙げて活動してゆきます。

関係では、毎年若い人達の協力で、夏祭りを盛大に行なう事が出来、町民運動会を行なうて、ふれあいの場を作っております。

今一番の課題は、二区会所の建設です。町・区並局、地主の松島さん、部落皆様の協力御支援を得まして、建設の運びとなりました。

来年桜の咲く頃には、一一八坪の立派な会所が完成の運びとなります。これから部落の拠点として今以上に住み良い部落作りに努力します。

ようこそ下市田へ

初めまして。まっばファミリーです。R一五三を座光寺から高森

に入ってバス

を御覧になっ

た方もいるか

と思います。

送迎バスじゃ

ないんです。

実はキャンピ

ングカーだっ

たんです。家

族四人で、冬

以外はキャン

プに出掛けて

います。昨年

までは、テー

ブルなどの

セッティング

を一人でやっ

ていましたが

、最近はお子

供達も手伝っ

てくれる様にな

りました。

また、昨年

は、テーブル

などのセッ

ティングを

一人でやっ

ていましたが

、最近はお子

供達も手伝っ

てくれる様にな

りました。

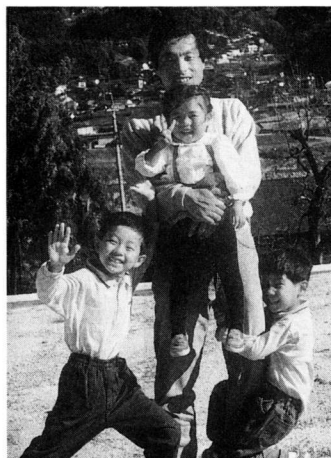
遊遊白書

五区 松葉 勝美

たんです。家族四人で、冬以外はキャン

子供と共に

六区 木下 昇



こちらに住むようになり、約二年、春祭り、夏祭り等々々な行事に声をかけて頂き、参加する度知り合いも増え、地域の一員に加われた気がしております。皆、開放的できさく人ばかりで心強く思っています。

私には、七才、五才、三才になる子供がいて、休日には家族で、山へ、川へ、公園へと出かけるのを楽しみにしています。幸い近くに公園や広場に恵まれ、子

供達とよく遊びたい、ボール遊びなどをして楽しんでいます。

子育て期の親子にとって、とても住み易い所だと感じています。

私の趣味の一つにカメラがあるのですが、天竜川に立ちこめる霧の合間に差す陽の光が、とても幻想的で美しかったので、写真に残したいと思い、シャッターチャンス wait しています。なかなか機会に恵まれませんが、

今後もしよろしくお願ひします。

り、皆でアウトライフを楽しんでいます。そんな事も多く常会、ご近所の方に迷惑をおかけしています。

子供達の保育園の事もあり、下市田に越してきて二年程

わけて、家を留守にする事も多く常会、ご近所の方に迷惑をおかけしています。

今後もしよろしくお願ひします。

地域探訪

下市田の石碑と

石造物(その二)

田口正幸

前回は庚申様関係の庚申塔、青面金剛碑などと、秋葉塔、金毘羅塔について書きました。昔は近所、同志、親戚が集って、豊作に感謝し家族の健康と子孫の繁栄を祈り懇親を深めました。今回は馬頭観世音、蚕玉様、十王様の紹介をします。

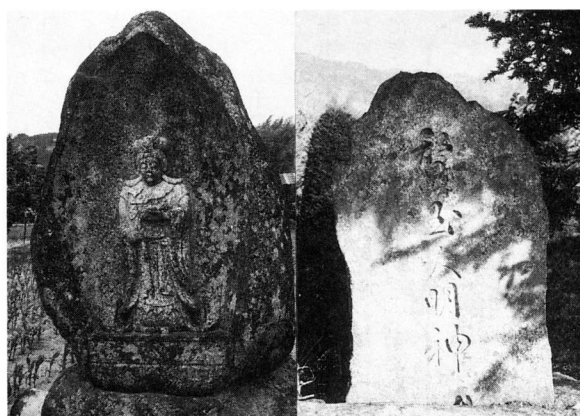
馬頭観世音

石碑、石仏など種類は大部分で、像を浮彫りしたものへん多いが庶民信仰の中で一番多いのは馬頭観世音である。旧道の辻、集落のはずれ、墓地の近くに見られる馬頭観世音の石碑は下市田に百基以上ある。自然石



馬頭観世音の碑

- 左＝転輪王の浮彫立像(像60cm)高さ65cm
 ・4区間ヶ沢観音堂入口。天保5年(1834)建立
 ・この他下市田区に15基ほどある。
 右＝馬頭観世音(文字)高さ58cm
 ・3区江戸ヶ沢保園下。安永8年(1779)建立
 ・この他下市田区内には90基ぐらいある。



蚕玉様の碑

- 左＝馬鳴菩薩の浮彫立像(像76cm)高さ145cm
 ・2区会所前辻。弘化4年(1847)建立
 ・この他4区南沢、新井(松源寺平)などにある。
 右＝蚕玉大明神(文字)高さ88cm
 ・5区武陵地一号墳。嘉永4年(1851)建立
 ・この他5区新井原、4区間ヶ沢、2区金部などにある。

これは、畜生類を守る観音様として信仰し馬の安全を祈ったことに始まったが、農耕や荷物運びに働いた馬の死後の霊を供養した碑であります。昔は荒れ地や雑木林であったところへ馬を葬ったので出砂原の六地藏左前の石碑はあの付近の物を集めたのだが、三十七基の中、馬頭観世音が二十三基もあります。文字を刻んだものには馬頭観世音、馬頭観世音大士などあります。

昔からこの地方は養蚕が盛んでした。明治になって生糸の輸出に伴い農家の経済の依存度も高くなり農家は日常、大小の悪いこ

蚕玉様の碑

高の自慢や飼ひ方の工夫、悩みなど話し合いました。

十王様の像

人は日常、大小の悪いこ



十王の石像

- ・1区唐沢(北村耕地)。高さ34～36cm
 ・前にあるのは人頭杖と浄玻璃の鏡。
 ・天保15年(1844)建立
 ・4区間ヶ沢観音堂(清水庵)には高さ29～30cmの十王の石像一式(16体)がある。(江戸中期のものらしい。)

とをしているので、生きている中に十王様を供養すると、あの世へ行つて裁かれても罪が軽くなると信仰しました。仏教の説話によれば、死んだ人は冥土(死んだ人の霊が迷い行くという世界、黄泉の国ともいう。)へ行き、再び生まれかわるまで峻しい道、おそろしい毒蛇が棲む三途の川など測り知れない困難な旅を続けながら、初七日の秦広王に始まり三回忌の転輪王まで

十人の王の裁きを受けて、その罪状によって次の世は何になつて何所へ生れるか決められます。この十王の中には、よく話に聞く閻魔王(様)には、死後五十七日にお目にかかり裁きを受けます。十王像の他に奪衣婆、人頭杖、浄玻璃の鏡なども一緒に祀ってあります。

以上、簡単な解説であります。写真の説明も参考にして、実物をご覧ください。

「自分を見つめる」

波田野 玲子

私が、小学四年の時だった。クラスの中に女子だけのあるグループができた。態度の良くない（あくまでグループの主観だが）女子を学校の裏庭へ呼び出し、よってたかって意見をするのである。いじめである。私にグループへ入るよう言ってきた。入るのはいやだ。でも断ればいじめられる。悩んだ挙げ句思いついたのは、両方の意見を平等に聞くマイク持ちの役で

故里の味めぐり

上 沼 政 夫

お酒を浴びるほど飲みた
いが懐は寂しい。そんなあ
なたに和風シヨット「柳や」
はジャストフィットです。

この店で守るべきスタイル
は、コップ酒でグビグビ飲
むことです。

「お酒ちょうだい」と頼
んだなら、現われたお姉さ
んがその手でしっかりと
ポットを抱えてくるのを見
ることになります。そして、
コップになみなみとお酒を
注いでくれるわけですが、

溢れるまで注がれるお酒を
コップの下で受け皿が責任
をもって受け止めるという
仕組みです。

酒好きなあなたには、ちょ
いと飲んで受け皿の酒を
コップに戻す時、「ニヤッ」
としながら、「これだよな」
となってしまうのです。

また、料理はすべて一口
サイズの小皿で出てくるの
が、他の店ではなかなか味
わえない風情となっていま
す。

のだろう。」悲しみの中で
自分というものを見つめた。
これが初めてである。その後
の人生は、自分の弱さを見
つめるところから出発した
のかもしれない。

あれから三十年近くたち、
三人の子の親となった。子
ども達も毎日、いろんな出
来事の中で喜んだり傷つい
たりしている事だろう。私
にできるのは、「一生」と

随

想



支払い金額に対する酔い
加減という分野では、すで
に定評のある店です。

今回、取材と称して飲ん
で食べたのは、暑かったの
で、生ビールの中を一杯、
王道のコップ酒二杯と小皿
の料理九品、しめて三人分
程。これで今時一万円札で
お釣りがくるのが嬉しいじや
ありませんか。

お店の場所は、伊那市駅
の西側の細い路地の中。
庶民の強い味方なのです。
さて、「柳や」を出て十
五秒の所に次に紹介する



貿易摩擦と俳句

唐 沢 武 文

戦争で日本に苦しい思いを
した欧米が、国力の低下と
牙を抜くため、農地開放、
財閥解体と武力放棄を日本
にさせました。勝者が敗者
を裁くのですから水に落ち
た犬を叩くのに似て、いと
も簡単でした。東洋の暴れ
者を少なくとも一世紀以上
閉じ込め、足腰立たせぬわ
い、快哉と祝杯をあげたも
のでした。そうです、世界
の警察を気取り民族意識を
軽視し、武力投資にはしり
肌の色の白い順が、進化の
過程証明だと信じて、異文
化を物珍しさの対象としか
捕らえずに居た結果です。

「うしお」があります。こ
こで仕上げるローメンをい
ただくのです。

この店の特徴は、その日
の気分・食欲によって選べ
る盛りの種類です。並から
超々大盛まで四段階に分け
られていてので、お腹と相
談すると良いでしょう。

ローメンをご存じない方
もいると思いますが、ゆで
た焼きソバのようなもので、
具はキャベツと肉。味はと
いえば、「ウーソ？」
一度食べてみることをお
勧めします。

戦争で日本に苦しい思いを
した欧米が、国力の低下と
牙を抜くため、農地開放、
財閥解体と武力放棄を日本
にさせました。勝者が敗者
を裁くのですから水に落ち
た犬を叩くのに似て、いと
も簡単でした。東洋の暴れ
者を少なくとも一世紀以上
閉じ込め、足腰立たせぬわ
い、快哉と祝杯をあげたも
のでした。そうです、世界
の警察を気取り民族意識を
軽視し、武力投資にはしり
肌の色の白い順が、進化の
過程証明だと信じて、異文
化を物珍しさの対象としか
捕らえずに居た結果です。

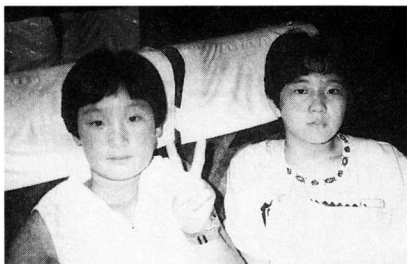
を知っている半分も知ら
ないではないか。
一、箱庭文化と馬鹿にして
いた日本の伝統芸に脱帽
したら如何ですか。軽薄
短小の製品の時代、まさ
に凝り性日本のお家芸で
す。それは永い歴史があ
ります。江戸時代の寺子
屋の数、文盲率は世界最
低ですぞ。特に伊那地方
に於ては、食うものも節
約して子供に読み書きを
習わせたとか。
一、日本の俳句を知って欲
しい。この「矮小の詩」
は省略文化の最先端たる
ものです。

実は、数年前より俳句を
始めました。これは省略の
文芸スケッチと言われる様
に、なかなかうまくいきま
せん。でも期限迫り作った
作品も、ミニ自分史で残り
ます。また日記が付けられ
ぬ者にとり拙い軌跡書とは
なります。実は現在の最大
の懸案事項は「母の俳句集
の編纂」なので、健在なう
ち実行したいと思いつつ越
年しそうです。

小中学生の作文

広島平和バスに参加して

小六串 原知佳(六区)



左が串原知佳さん

八月五日の日に、丸山公園をたくさんの人たちに送られ、広島へ向いました。六日の朝広島に着きました。記念式典には、たくさんさんの被爆者や遺族の方たちが来ていて、慰霊碑の前では、お花やお線香を上げて手をあわせ、中には、泣いている人たちもいました。そんな様子を見てみると、原爆の落ちた時のおそろしさが私にもわかるような気がしました。その後平和公園を

見ました。そこには、たくさんさんの慰霊碑がありました。たった一つの原爆でたくさんさんの死者や犠牲者が出るなんて、信じられませんでした。私は、この平和公園で一番に残ったものがあります。それは、学校教師と子どものお碑です。先生が子どもをだしているところが、とても心に残っています。「太き骨は、先生ならむ、そのそばに小さき頭の骨あつまれり」と書いてありました。たぶん、先生をたよりに子供たちが集まってきて、先生はその子どもたちを必死で守ろうとしたのだらうと思います。つぎに原爆資料館を見ました。原爆のおちた八時十五分まで止まっている時計や、その時着ていた服などがあり、服は持ち主の名前が書いてありました。「きつとこの服のち主は、なくなつてし

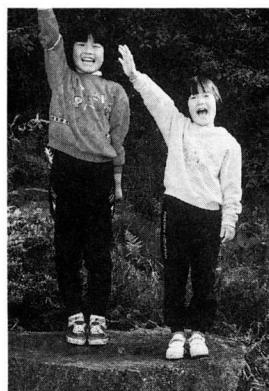
まったのだらうな。」と思いました。それから、被爆した人の様子をうろ人形で作ってありましたが、ひふがたれさがあっていて、目をおおいたくなるほどでした。人影の石は、石に人の影がうつっていて、とてもびっくりしました。私はこの広島平和バスに参加して、平和という大切なことを学びました。原子爆弾は、たつたひとつおとしただけで、人間や、すべての物をなくしてしまします。世界中に、戦争のない平和な時が一日もはやく来るといいなと思います。それから、平和バスに参加した人たちと、これからずっとお友達でいたいと思います。

巣から落ちたツバメ

小六 木村 葵(四区)

七月の末、巣から落ちていたツバメの赤ちゃんを見て、かわいそうだと思い、拾って帰った。早速鳥かごの下に広告をひき、牛乳をのませて入れてやった。朝起きて来て見たら足音を聞き、「チュン、チュン」と鳴いたので、牛乳をのませた。そのうち、牛乳もあき

てきたらしく、少ししか飲まなくなった時、ちょうどお父さんがラジオの、子供電話相談室をやっていて、ひき肉で飼うとよいと聞いて、教えてくれたので、早速食べさせてみたら、すごい食べっぷりだった。あまりひき肉を食べさせると、油がのって飛べなくなるの



左が木村葵さん

で、かわりにそうめんをたべさせてみた。ひき肉と同様に、すごいすごい食べっぷりでしたが、お腹のすきが早い様でした。私達が留守のあいだ、おばあちゃんがえさをやってくれました。そして、出口を針金でとめ、電気を消して、おばあちゃんが仕事場に

入試という壁

中三 松下 恭介(二区)



複雑なこの胸の内を文章に表わして、ストレスを取り除こうというのです。なかなかいいものです。

僕は、入試というものをとっても遠いものと思っていましたので、それ入試といわれてもパツとせず、普通の生活を送っていました。本当は自分だけかもしれないませんが、中三は部活もほぼ終わり、あとは勉強という悲劇の学生時代のまっただ中なわけで、入試を目指してやるゾーッと丸くなつて勉強する人は見たことありません。さて、そのよう

な状態で僕はどうすればと考えるわけです。友達と一緒にのペースに合わせるのか、それとも独自に進むかと。もちろん他から見れば、自分の進路を見すえて進むのが良いですが、僕は、あまり人ができていないもので、そうはできませんが。そもそも僕の家は三人姉弟で姉二人と僕。やっぱり男一人は大変です。プレッシャーが男二人の家と比べると二倍のしかかるから大変です。期待がプレッシャーとなるわけです。一人息子をお持ちの御両親、焦らせないよう気長にみてあげましょう。温かいお茶でも入れ子供をリラックスさせて下さい。中三の松下恭介の心からの願いです。



しらぎく会の名のもとに下市田全域から集まっており、月に一回、第四木曜日に町福祉センターを会場にして、長野より菊城流の先生が来て下さり、歌謡舞踊、民謡を教えていただいております。

グループ紹介

民謡しら菊会

森山 千代江

私達のグループは七名で、しらぎく会について紹介致します。

く、皆一生懸命がんばって楽しく続けております。その他に自主練習として、月に二、三回位行なっております。

私達は上達が目的でなく、いつまでも若々しく、健康と美容のため和氣藹藹として、練習に練習を重ねていくこんなグループです。

今までに習った踊りも老人ホーム、他の施設への慰問、公民館行事、各種の行事に参加し発表する場も数多くあります。特に慰問等で喜んでいただいた時は少しでも役に立てたなあ、習っていて良かったのではとつくづく思います。

年一回の発表会もあり、東京より家元、長野からも他の先生方が応援にかけつけて下さり、日頃の私達の練習の成果を発表する場ももてます。

最後に一言、私達がこのように、グループ活動で、家を留守にすることも多くなりがちですが、家族の方達の協力があればこそ出来るものです。感謝の気持ちを忘れずに、

続けようねとつねづね話しっております。

下市田読書会

加藤 みつ江

勝又恒一さんが下市田公民館の主事だった頃、グループ育成推進のよびかけがあり、小川博志さん(図書部長)らと相談の結果、島崎藤村の「夜明け前」を読み合わせしようと、昭和四十三年春発足しました。

当初の会員は勝又恒一、小川博志、小川光男、秋田寅二郎、酒井伝、竹内昭一、串原喜代枝、杉田美幸他の諸氏でした。「夜明け前」の長篇を読み終え「破戒」「新生」「のび度」と藤村作品を読みついでいく中、会員も大分入れ替り、今一度「夜明け前」という希望で、再び「夜明け前」を完読しました。指導者も勝又恒一先生、酒井先生、藤松先生と代り、十年程前から二本先生にお世話になっております。或る時は出席者三、四人という消え入り

そんな夜もありましたが、二十五年余の長い年月、よく読み続けたものと今更ながら感服いたします。そして平成元年から「平

今後も、私達しら菊会をどうぞ宜しくお願いします。

家物語」を読

「平家物語」

は、平氏がわずかの間に急激に中央政界に躍り出て栄華を極めますが、それも束の間、やがてあわただしく滅び去る、華麗にして悲運な物語です。文語体で難解なケ所も多少はありますが、琵琶に合せて

今に語り継がれたといっただけあって流暢な文で、皆で声を合わせて朗読を繰り返して、先生に解釈して頂いて読み進んでいます。只今1/3程読み終えました。

勉強会は月二回一時間半位で一年一回は研修と親睦を兼ねて旅行します。木曾路、鎌倉、秋山郷、浜松等、一泊又は日帰りです。会員も十八名でこの頃は出席率もよく、始めに季節の歌な

ど合唱して雰囲気が大変和みます。

野から上がって忙しく家族の夕餉をととのえ、休む間もなくかけつける夏の夜、ほっとして炬燵に温りたいのを我慢し、寒い夜道を着ぶくれて出かける冬の公民館と、気の重い時もあるけれど、一人では根気負けして読めない文も、読書会なればこそ感謝しあひながら、足どりも軽く戻ります。

初冬の多忙な時に、区民の皆さんから原稿を寄せて頂きありがとうございます。

今回は、区三役の改選・会計中間報告・文化祭り、敬老会・カラオケ大会等の行事を中心に毎号継続している地域紹介、委員会活動・グループ紹介、転入区民の感想、小中学生の作文、随想・提言など記事と写真により、できるだけ親しんで読んでいただけるように編集しました。尚、新企画の「下市田の石碑と石造物」その二も掲載できました。編集が終わって公民館の時計をみた十時二分になっていました。今回は新委員になって三号めの編集の為、大分能率的に作業ができました。

編集後記

皆さんの投稿をお待ちしています。

